

平成 26 年度 第 2 回南砺市行政改革推進委員会会議録【全文（一部意識）】

1. 開催日時 平成 27 年 2 月 25 日（水） 午後 1 時 30 分から午後 4 時 00 分
2. 開催場所 南砺市役所福野庁舎 201 会議室
3. 出席者 ○委員 14 名
松本久介委員、安達行成委員、野原教正委員、島田勝由委員（副委員長）
林則雄委員、中嶋與四雄委員、蟹野正男委員、長尾治明委員（委員長）、
石黒厚子委員、長谷川邦子委員、上埜慎也委員、野村玲子委員、
沖田光弘委員、中野ミチ子委員
○行革推進本部 11 名
田中市長（本部長）、工藤副市長（副本部長）、高田教育長（副本部長）、
長澤市長政策室長、高山総務部長、杉村民生部長
原田産業経済部長、大西建設部長、豊川教育部長、
仲筋地域包括医療・ケア局長、清水議会事務局長
○事務局（行革・施設再編課、総務課）6 名
竹谷総務部参事、西井行革・施設再編課長、柴田総務課長
石崎副主幹、長岡副主幹、野村主任
4. 欠席者 ○委員 4 名
永森常次委員、山田栄子委員、本多峰子委員、宮下直子委員
5. 傍聴者 なし
6. 議題 1) 第 2 次南砺市定員適正化計画（案）について
2) 南砺市公共施設等白書中間報告について
3) 第三セクター改革プランの作成について
4) 平成 26 年度指定管理者選定結果（新規・更新）について
5) その他

○開 会 午後 1 時 30 分

【行革・施設再編課長】

皆様には、何かとご多用のところをご出席いただき、誠にありがとうございます。只今より、行政改革推進委員会を開催します。私は、会の進行を務めさせていただきます、総務部 行革・施設再編課の西井でございます。よろしくお願い致します。本日は、永森委員、山田委員、本多委員、宮下委員からは、所用により欠席と聞いています。なお、出席委員及び市側の出席者につきましては、お手元の座席表のとおりとなっております。

はじめに、この委員会につきましては、前回、17名の委員のみなさまに委嘱しましたが、要綱には18名以内ということで、12月に追加公募しましたところ、応募いただき、1月の選定委員会で選定されました。今回新たに委員になられます中野ミチ子様

を交付いたします。

(市長より委嘱書交付)

中野委員には、今後とも、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

それでは、開会にあたりまして、推進委員長 長尾様からご挨拶をいただきたいと思ひます。委員長、よろしくお願ひ致します。

○委員長あいさつ

【委員長】

委員長を務めております富山国際大学の長尾と申します。年度末のお忙しいところお集まりいただき、ありがとうございます。開会のあいさつということで、先日、小布施町の町長の話を聞くことができましたので、紹介させていただき、あいさつの代わりにさせていただきたいと思ひます。長野の小布施町は人口1万3千人くらいの規模ですが、観光交流人口は、年間120万人ほど、多いときは130万人ですが、6次産業化のモデルとして全国に紹介されています。第1次産業では、栗栽培、第2次産業では加工業、第3次産業で栗の販売、飲食店を町の中で展開されておりまして、第1次、第2次、第3次をかけると第6次ということで、足しても6次になるのですが、産業同士の相乗効果ということで、「かける」と紹介されていることが多いようです。その話の中で、感心したのは、非常に地域住民や企業と行政がうまく協働し、連携していることです。最近では、県外の企業もまきこんで、ある企業と連携し、新宿に小布施町のアンテナショップとして、小布施町が投資しているわけではありませんけど、企業が、小布施町の考え方、行政運営に賛同し、宣伝をしてやろうということで、自主的に小布施町のいろんな特産品を紹介しています。また県内企業が空き家を手助けできないかと、小布施町の施設の活用を応援していきたいという、他の行政では、まだそこまでいっていませんが、町のファンづくりとして、企業がスポンサー的に応援をしていくのは新しい試みだと感じました。景観作りにおいてもまちづくりにおいても、きれいな環境を作っていますし、果樹園においても、栗だけじゃなくて、ブドウとかモモとかナシとか第1次産業を中心に考えてまちづくりをしておられる。農業にこだわって、観光推進につなげている。葛飾北斎の美術館もありますが、農業を大切に景観を守っていききたい、そういった取組を理解した県外企業がスポンサーとして応援していく非常に新しい取組をしていると思ひました。やはりこれからは、連携や協働が行政としても重要になっていきますし、まちを作っていくうえでも、共感者を多く募っていく、そのためには、まちの理念が、まちのマネジメントにおいても重要な時代になりつつあると思ひました。まちも経営と同じようにどのように運営を図っていくか、資源を使っていくか、一時間半の講演でしたが、非常に共感できたものが多かったです。小布施の町に行かれましたら、いろいろな目で視察していただければと思ひます。

今回は、事前に資料が配布され、かなり内容が濃いものですが、時間の関係もありますので、効率的に活発な意見を出していただけるように議事の進行を勤めたいと思ひますので、ご協力のほどよろしくお願ひいたします。開会のあいさつとさせていただきます。

○本部長【市長】あいさつ

【行革・施設再編課長】

続きまして、南砺市行政改革推進本部長であります市長からご挨拶を申し上げます。

【市長】

お忙しい中、お集まりいただきまして、ありがとうございました。会場が違って雰囲気も違うと思いますが、いろいろな意見を出していただければと思います。委員長の話にありました小布施町には、手本にすることが多く、貴重な話を聞きました。ありがとうございます。2月27日から三月の定例会が始まりまして、新年度予算などを審議いただくところですが、ちょうど日本がこの後どういう方向に進んでいくのか、大切な時期にさしかかっているのではないかと、そういう意味でも小布施町の手法は参考にしなければならないと感じているところです。地方創生はいろんな使い方がありますが、3つの視点があると思います。ひとつは、新しいことを作っていくことがメインではなくて、何を残していくかが大切であり、土地と文化をしっかりと守っていかなければならないという視点があります。もうひとつは、従来どおりの考え方や手法での地域づくりはなかなかうまくいかなかった面で、その手法を転換して、次元の違う発想をもって取り組んでいかなければならないと思っています。もうひとつは、大きなリゾートのような夢をもつのではなく、身の丈にあったものを探し出し、大切に作って、この3つのことを思っています。3月14日には新幹線が開通します。これに伴って、いろいろな情報が入ってくるなかで、距離が短くなり、観光客が来るという単純なことではなく、例えば大学生の自動車学校の合宿の誘致の話もあり、2週間から20日間で免許がとれるという民間の発想もある。こういったことをPRしていくことは行政がしていかなければなりませんし、そのような仕組みを作っていたら効果もあるのではないかと感じました。このようなことがひとつひとつ身になっていく、それが市のマネジメントでありまして、この会議で目標を立て、成果を出す、そこから次のステップにつなげる、もしくは投資の部分につながっていくものと思います。10月に一回目の委員会がありました。今日までに、市の10年の節目も向かえたわけでありまして。今後もしっかり行革を進めていく新たな思いをもって取り組んでいき、委員のみなさんから忌憚のない意見を賜りながら、進めていきたい、それが地方創生に繋がっていくと思いますので、よろしく願いいたします。

○議事

【行革・施設再編課長】

ありがとうございました。本日の協議事項に入ります前に、前回及び前々回の会議で、委員から、質問のありました福光の「野外児童センター」の件につきまして、報告させていただきます。「野外児童センター」については、建物は社会福祉協議会の所有・管理ということで、公共施設再編計画の施設の中に含まれていないが、一帯の今後の管理・運営

の方向はどうなるのかという質問でしたが、これにつきましては、社会福祉協議会と市の担当課で協議し、施設の状況などから廃止・取壊しとすることになったということで御座います。この件につきましてのご意見等につきましては、本日予定しております事項の協議後に伺いたいと存じます。

それでは、予定の議事に入らせていただきますが、ここからの進行は委員長さんをお願い致します。

【委員長】

では、これから議事に入りたいと思います。第2次南砺市定員適正化計画案につきまして事務局から説明をお願いします。

〔事務局から説明〕

【委員長】

事務局から説明いただきました。質問、ご意見など、どなたからでも結構ですので、よろしく願いいたします。いかがでしょうか。

【A委員】

この文章に書いてありますように合併後、201人の削減に取り組んできた、とありまして、目標を達成させるために、限られた人員で業務を行っているとあります。要するに、目標を達成させるためにかなり無理をして減らしてきたことが分からないわけでもないが、それだけ減らすとうことは退職者の1/3採用をしてきた努力があったとも思います。それなりに評価するべきだと思います。ただ、これから、南砺市の人口がこれから年間600人から700人減るので、5年間で3500人人口が減る、人口の減がどの程度加味したのか見えてこず、一般職は現状のままでいくと聞こえてならない。人口が減ったから仕事が減ることにならないのは分かりますが、一般市民から見ると、職員数を減らさないというのは理解が得られないのではないかと思います。表4にあるように、年齢構成がいびつなのは、若者がぐっと減ってしまったからと理解でき、これからは、59歳の人を30人やめたら30人入れる、棒グラフが右から左にずれていく、5年経ち、10年経ち、現在は年齢構成がいびつになっていますが、ゆくゆくは平均値におさまるのではないかと思います。一般職を全然減らさないという理屈がよく分からない。市民協働で行政が、自治振興会や社会福祉協議会とがんばってみんなで作ろうという理念も新しく誕生しています。その中で、人口が減っていくのに一般職員は減らさないというのは、賛成できないという立場で発言させていただきました。

【総務課長】

おっしゃるとおり、人口減を加味しながら5ヵ年計画を作ったということにはならない

と思います。しかしながら、ここ10年間の計画のうち、私は5年間職員配置に携わった中で、それぞれの部署、例えば行政センターや保育園を一定率で減らしてきた影響が出てきたのも事実かと思っています。ですから、一般職を減らさないのかということであれば、もちろんこれからも努力を続けていこうと思っていますし、人口減に見合った組織機構の見直しも必要かと思っていますが、いつ何年に何人減らせるのかということは、今の時点では言えないのも実態だということもご理解いただければと思います。

【A委員】

減らさないことが前提の計画となっていることを言っている。

【総務部長】

A委員から人口減少に対する職員減のありかたについて質問をいただいております。今回、職場実態と市民感情という二つの視点があり、ご意見いただいていると思います。この第2次定員適正化計画の策定自体が、今の時期がよいかという議論が実はありました。と言いますのは、まずは、第1次計画の目標達成、そしてこの計画の文面に何回も書いてございますが、あるべき仕事のあり方、行政センターのあり方を抜本的に考えていかなければならない、としておまして、このままずっとあぐらをかいてやっていくわけではなくて、それまでの時間が必要ということがありまして、公共施設の再編や庁舎機能のあり方、仕事のあり方について検討し取り組んでいきますので、その方向性が出たときに、減らしていくことは必要だと思っています。現状での仕事、過去10年の採用で年齢構成がかなりいびつな形になっている中で、これだけをお示しして、この後は、不断的努力をしながら、計画を逐次見直していくということでございます。A委員のご質問にはきちっとしたお答えにはなっていませんが、あくまでも、それにつなぐため、分かる範囲での取組、現状をお示しすることも必要ではないかということで、今回、あえて計画を作っているところです。職員構成を見ますと、20代が少なく35才以上が多いということで、ただ単に採用するのではなく、近年は、社会人経験の方も積極的に採用しながら、少しでも職員構成を是正しながら進めていきたいと思っていますので、ご理解いただきますようお願いいたします。

【A委員】

おっしゃられることは分かります。第1次計画を達成するのにかなり無理をしてきたし、間髪いれず2次計画を作るといびつな形になり、行政センターのあり方や庁舎の方向性が出たら計画を見直すというのもよく分かります。ただ、第1次の合併直後に決めたのは、将来、8つの町と村が集まるとどうしても無駄といいますか、省力化できることがあるはずだ、だから201人の削減に向けて身を切る改革でやってこられたと思います。今回、たて続けだから、前回と同じことはできないということは、何もしないのと同じ事であって、この計画は何のためにあるのか。年度別の計画でも、何人定年になって、何人保育士を採

用すると、ちまちまとした話であって、こういう心構えがあり、身を切る覚悟があってはじめて計画は、なるほどと納得できるものであって、今回の計画は全く理念がないというか、身を切る改革の覚悟がゼロの計画を発表するのはいかがなものかと思うのです。

【市長】

補足をさせてください。A委員のおっしゃったとおりであります。この計画には、今できることしか書いてありません。保育士の担任の数を確保することは増とし、分かる範囲で減っていくのは減としたのみであります。これを2年間遅らせるという議論もありました。部の数、課の数、仕事のやり方と、庁舎のあり方が、丁度議論の最中です。このことをやりきならないと人数がでないことがあります。保育園の統合が来年度終わり、保育士の数については、分かってきた。あとは、5年間で減っていく人数しか入っていませんので、5年間の早い時期で、ある程度の仕事の組織、やり方をお示しした上で、人数を入れていきたいというのが、裏のお願い事です。計画してよいかどうか、つい先日まで話していたところでありまして、委員の言われることは理解していますが、仕事のやり方、組織のあり方、どういう人員でどういう仕事をやるかをまず見直さないと前に進まないということでご理解をいただきたいと思います。

【A委員】

例えば、59歳の方が30人やめて、大学卒業の若い人を30人採用する、この調子で5年間続けたとすると、人件費が相当や安上がると思うんです。人は減らさないけれども、人件費はこの5年間で5千万円安くなりますとか書いてあればよいのではないかと。頭数を減らさなくても高齢者の方がやめて、若い人を雇うと、もしかしたら相当人件費が安くなるかもしれません。それでがんばるんですよと言うのも手かもしれません。

【市長】

第1次計画で人件費の率が下がったのは理解していたのですが、30人減るから30人採用するとまで来年の計画までは言えず、今言えることだけが数値としてあがってしまっていて、説明しづらいところではありますが、ご理解いただきたいと思います。

【委員長】

目標としては、人数にウエイトがおかれていまして、内容面では、人件費の削減という視点もあると思いますし、先ほど説明ありましたように、組織は、企業でも一緒ですが、部署間の整理をどうやっていくか、ある部署で何人削減できて、別の部署で活用するなどいろいろなアイディアも出てくると思いますので、裏の進め方として、部署間の統廃合をどうするかという視点を検討していただければよいのではないかと思います。今後必要な部署も出てくると思います。現状においては今の部署で対応できるかもしれませんが、今後に関して、新しい部署、部署の統廃合し新しい機能をもたせようという考え方もあると

思いますので、検討していただくと今の質問にも対応できるのではないのでしょうか。

【市長】

委員長のおっしゃるとおりで、今、部署の関係を先行して検討しています。部署の数と仕事の内容とずっと同じ形でやっており、かなりいびつな形になっていますので、抜本的に部・課を変えていくことを検討しています。その中で、市民のみなさんへのサービスを確保しつつ、後ろに見えない部分はひとつにするなどして、また建物としてのコスト、メンテナンスも含めて検討するという二つの面で検討を進めていますので、その点については、委員長のおっしゃるとおりだと思います。

【B委員】

5ページに計画がでております。1ページに趣旨がきちんと示されているので、この趣旨をもう少し、計画の文章の中に取り入れられたほうがより分かりやすいのではないかと思います。

【委員長】

事務の方でご検討いただければと思います。

【C委員】

2ページの表2などを見ると、職員一人一人が、がんばっているのだと思いますが、職員の方達のことを考えると、仕事は増えるは人は減るはと、モチベーションに関係することもあると思います。給与は県内でどの位置にあるのか、安いけどがんばれというのか、それなりに身分は保証しているのかお聞きしたいです。

【総務課長】

給料につきましては、合併前は、県内でかなり低い町、村でした。合併以降も当初は県内でも下から一番目か二番目だったと思いますが、みなさんのご理解もいただきまして改善はしてきております。適正な人事評価の導入や職員研修を通して職員のモチベーションは保ち続けているものと理解しています。

【D委員】

ラスパイはどれくらいなのか。

【総務課長】

ここ数年、少しずつあがっており 93.6 か 94 程度 (93.7) で、県内では、下から3つ目ほどだったと思うのですが、緩やかな右肩上がりとなっています。

【D委員】

技能労務の方は不補充との説明でしたが、減らされたあとは、どのように業務を進められるのですか。

【総務課長】

基本的には、技能労務は公務員がするのではなく、民間の力を借りるべきだという国の考え方もありまして、例えば、給食の調理や運転については退職のあと補充しないというのが日本の流れとなっています。民間、臨時、外部委託の活用ということになると思います。

【E委員】

教育の面からお伺いしたいことがあります。子育て支援のため保育士を増員するとありまして、担任の数を増やすという説明がありました。子供は少子化に向かっています。子供たちの一人当たりに対する保育士の割合を増やすということでしょうか。

【総務課長】

保育士につきましては、保育園の統合が概ね終わり、目標クラス数が見えてきました。そこに必要な保育士の数も分かりましたので、それには少し足りなくなったということで、クラス数については正規の職員でまかないたいと、今は若干欠けていますので、補充したいということです。

【E委員】

ということは、今まで、少ない人数で、無理をしていたということですね。もう一つ心配な点がありまして、幼保一体が福光でも進んでいます。市民からいえば、良い方に行くのか、悪い方に行くのかという戸惑いがあります。幼稚園は特殊なもので、南砺市にはあまりないです。幼稚園に入れる方は教育熱心な方が多くて、幼保一体になるとマイナスの面が多くなるのではないかとということと、保育士が増えるけど、中身は充実するのかという不安があると思います。不安が多くなると人は離れます。ただ増やすのではなく、どのように教育が行われるのか、市民の不安が巷にあることを話させていただきたいと思います。

【総務課長】

数を増やすということだけではいけないと思っています。

【民生部長】

幼保一体についての質問がありました。4月から展開されるということで、基本的には幼稚園部分は、幼稚園部分としてあって、幼稚園のお子さんを3時以降も預かれるという

時間延長のための幼保一体となっています。南砺市では、認定こども保育園として井波のにじいろ保育園がその形をとっております。今回の定員適正化計画では、クラス担任を正規職員に戻していきたいということで増員を考えているところです。保育士の質につきましては、日々研修等によって資質の向上を図っていきますし、幼保連携になったからといって、現在のそれぞれの保育園が変わるということではありません。

【委員長】

重要な案件であり、質問が多いのも分かりますが、量的な部分の説明だけでなく、定性的な部分で、このように補っていくなどの、いろんな定性的な要素も入れれば、各委員の皆さんにも分かりやすいのではないかと思います。人数のみで動くのではありませんので、少人数でも一人一人の能力が最大限に発揮されれば合理的な仕事も進めていけますので、こういうレベルの要員がスタッフとして配置されているので大丈夫だとか、背景の部分の説明などです。住民へのサービスが表向きには低下されると受け取られますので、こういうことで補って、従来以上に住民サービスが高まりますという説明があればよいと思います。事業の効率化も必要ですが、部署間、エリア間の調整などの視点から、削減を図り、今後の時代を考えると重要な機能をこの部署にもたせるとか、複合的な見方をしていただけるとよいと思いますので、ご検討いただきたいと思います。

【委員長】

では、次に2番目の南砺市公共施設等白書の中間報告につきまして事務局からお願いします。

[事務局から説明]

【長男委員長】

只今の説明に関しまして、ご質問、ご意見などございますでしょうか。

【F委員】

前回の会合では、今後30年の計画と伺ったが、今回のものは40年となっています。どのような理由でしょうか？

【施設再編係長】

資料2-1の3ページを計画期間の検討として、短期的に取り組む課題については5年間、中期的に取り組むものについては10年間、より長期、例えば学校については、短期的に統合することはできないことだと思いますが、このようなものについては、20年、30年かけて取り組むということで、計画自体は30年で取り組むということで変わりはありません。40年というのは、水道の更新費用、耐用年数は40年となっていることか

ら、資産の推計を40年で行わせて欲しいということです。

【F委員】

人口推計の表をみていると、2044年となっている、あるいは、他のものでは、2060年までのデータがあったりと、目標にしているデータがバラバラになっている。とり方によっては、例えば47ページの図では2043年で区切ると、実は2044年でぐっと下がっており、こういう数字をみると、都合のいい数字を選んでいるのでは、とどうしても変な勘ぐりをしてしまうものですから、やるとすれば、目標とする年をあわせていただければ、私たちも判断しやすいと思っていますのでご検討をよろしくお願いいたします。

【施設再編係長】

貴重なご意見ありがとうございました。現在、47ページ等の図でいけば、総務省から示されているシステムそのものでは40年しかできない仕組みということですが、年度については、可能な限り合わせていきたいと思えます。

【D委員】

地域別の人口ですが、国調でなくて住民基本台帳からとってきていますよね。そうしますと、推移のもととなるのは、何なのでしょう。

【施設再編係長】

全体の人口推移については国調からとっています。旧8町村のものについては、過去の住基人口がとれなかったことがあります。旧町村別の人口推計と、基準が異なっています。減少していく計算方式につきましては、人口問題研究所の率でとっています。

【D委員】

アンケートは、全戸とか抽出で実施されるのですか。

【施設再編係長】

3千名に発送したいと考えています。

【G委員】

説明いただいた後段では、文章の終わりで厳しい厳しいと訴えられており、これにより今後様々な調査の中で課題を検討していくのだと思います。公共施設とインフラ整備は、同じように重要だと思うのですが、インフラ整備は簡単に減らすことができないと思うのです。この道路はお金がかかるからやめるとか、この下水道はとめるとかできないと思いますので、どうしても整備していかなければいけないのだと思います。もう一つは公共施設で、何度も検討されていますように、配置の問題だとか人口とか利用率などから検討

されていくのだと思いますが、南砺市の場合は、特に広い市域で人口密度も薄く、広がって居住している中で、施設が点在しており、すごく難しいと思うのですが、今後どのように考えていかれるのか大事なところでもあります。この後の、4章以降でいろいろな施設の状況について分析し、地域ごとにも分析すると思いますが、ポイントとして、2-1資料の中で、フローにサービスの方向性の検討とか、あり方の検討とか大まかに書かれていますが、具体的にどの観点で分析されるのか、住民アンケートで何を聞くのか、「必要なのか」と問えば「必要」と応えられると思います。かなりの覚悟がいると思いますが、分析、今後の方向についての現時点での考えをお聞かせください。

【施設再編係長】

サービスの方向の検討については、利余状況、人口も含めて考えていきたいと思います。例えば、図書館は南砺市に5つあると思いますが、利用状況をみて、本当に5つ必要なのかというような、利用人数、施設の古さも含めて分析していきたいと思いますが、図書館は、全国の自治体でどれくらいあるのか明らかにし、分析していきたいと思っています。アンケートについては、具体的には十分には検討していないところですが、イメージ的には、ある自治体の例ですが、あなたは公共施設をどれくらい利用していますか、使っている上で、満足しているか、場所が適当か、利用料金が妥当であるか、老朽化が目につくか、他の市の施設に比べて良いか悪いか、ある自治体の例では、小学校はコミュニティ機能があるため存続すべきか、というものもありますし、人口が減っても体育館は残すべきか、等の項目で実施したいと考えています。

【G委員】

サービスの方向性については、利用状況や人口を調べるとの事ですが、やめるか続けるかの線引きがあると思います。住民の方に納得いただくためには、ある程度最初に示して、こういったことで検討し、こういう状況であれば他のものと再編します、など、かなり痛みを伴うものであると思いますので、冒頭に示しながら進めていけばよいと思います。

【施設再編係長】

財政シミュレーションは十分にしなければならないと思っていますが、ただ公共施設だけでまかないきれぬものでもないと思っています。たたき台は、市役所内の公共施設検討委員会で作りまして、これであれば財政に耐えうるものです、とした上で、大切な施設もなくさなくてはいけないこともでてくるかと思っています。そうしなければ今後何十年と南砺市をきちんと持続して運営していけない、そういったことを住民のみなさんにきちんとお示しして説明し、施設の再編の理解を求めたいと思っています。

【H委員】

将来膨大なお金がかかることはみなさん分かっていると思います。インフラは省略でき

なくて、修繕や更新は分かりやすいと思います。これを引いたときにどれだけ縮めないといけないかが大きな課題ですね。一番は建物とか施設とか、利用状況のアンケートをすると実際より非常に大きな、希望的な数値があがってくると思ひまして、とりあげるようなものにはならないのではないかと思ひます。もう一つは、庁内の施設再編の委員会では英断をする時に、引っ張り合いが起きるのではないかと思ひます。でもやはり、ゼロから出発して何を残すか、どこから切らなければいけないか、が大事だと思ひます。この委員会では考へてみることも大事なのではないか、全然違ふ第三者からの意見も参考にするべきではないかと思ひます。取捨選択していけばよく、市だけに任せておいてもうまくいかないのではないかと思ひます。引っ張り合いがあるので心配してしまひます。

【I 委員】

意見ではなくて口説きということで聞いていただきたいと思ひます。昨年、マスコミに利賀の人口が600人を切ったと取り上げられ、住んでいる者は、気分的に落ち込む。今、市から利賀地域の人口推移を見せてもらおうと実際は、これより極端な下降線をたどると思ひますが、住んでいる者からすれば、非常にショックです。頭では分かっていることが実際こう数値で示されると、気持ちが萎えてしまう感じがする。小学生6学年より中学生の方が多いところもあります。あと2年で卒業してしまうと、子供の数が減ってきて、市から数値が出されると、口説きのひとつふたつ言いたくなるような気分です。地域的にはいろんなことを考へているのですが、ある程度人口がいないと継続も難しいですから、市も考へていただいてありがたいと思ひますが、住んでいる者が萎えてしまうものがでるとさみしいものだなと。愚痴で申し訳ないですが、皆さんの記憶の片隅に残していただければと思ひます。

【委員長】

まだまだ意見があると思ひますが、FAXなりメールなり事務局に提出していただければと思ひます。

3番目の第三セクターの改革について、事務局から願ひします。

〔事務局から説明〕

【委員長】

只今の説明につきまして、ご質問ご意見などござひますでしょうか。

ないようでしたら、この計画で進めていただきたいと思ひます。

では、四番目の指定管理者選定結果について、事務局から願ひします。

〔事務局から説明〕

【委員長】

只今の説明につきまして、ご質問ご意見などございますでしょうか。

【G委員】

新規ではないけど、業者が変わったところは2箇所と説明がありました。それ以外のところは、公募したけど、同じところだったということだと思いますが、公募でどれくらいの業者があったのか、非公募はなぜ非公募になったのか、教えてください。

【施設再編係長】

公募の件数は、一番多いところで、4社の公募がありました。それ以外は2ないし1が多いです。3社が3件ありました。

公募にしなかった理由については、市で決められているのですが、体育館等は、教育普及活動等を重視する施設で、指定管理者が変わると利益につながる活動が優先されて、非営利活動がおろそかになるおそれがあることで非公募としています。介護施設については、現在の施設の管理運営について専門的知識、技術を有している場合で、指定管理者が変わると専門性の欠如によりサービスの低下のおそれがあるものは、非公募としています。市の施策の推進の拠点として位置づけているもの、シルバー人材センターなどの施設、活動拠点となっている施設については、非公募となっています。

【G委員】

今言われた、なぜ非公募なのかは市のHPに公表しているのですか。例えば老人福祉施設については専門性が必要なので公募していないとか。

【施設再編係長】

現在のところは、市のみなさんの見えるところにはありませんので、今後検討していきたいと思います。

【J委員】

非公募の施設を見ると、指定管理料が予算額よりも上がっているが、公募の施設はゼロか下がっています。理由はあるのでしょうか。

【施設再編係長】

消費税が8%に上がった要因もあります。施設は個別に積算していますので、一概には言えませんが、指定管理者を募集するときは、個別に、維持管理費にいくらかかるか積上げます。人件費、高熱水費、委託料などを積上げて、額を試算し、その上で、この施設をいくらか管理できるか提示をしていただく手順を踏んでいます。積上げた上で、上がった施設、下がった施設があります。

【J委員】

26年度の決算見込であがっている可能性もあるとの理解でよいでしょうか。

【施設再編係長】

決算見込額とみていただいてよいです。

【K委員】

蒸し返すわけではないですが、児童館も、非公募の条件にあてはまるのではないのでしょうか。児童館は、本来は、指定管理ということは、ペイがあってはじめてできる。子供達からお金はとららいということからすれば、指定管理に向かないのではないですか。

【施設再編係長】

児童館については、指定管理にする際、管理体制の強化について説明させていただいたと思います。臨時職員のみが管理していましたので、責任のある立場の方を施設に配置させていただきたいということです。よりよいサービスの提供のために、管理体制を今までより強化するために指定管理者を導入したということです。

【A委員】

じょうはな座ですが、管轄が新年度から観光交流まちづくり課から生涯学習スポーツ課に替わるのでしょうか。

【施設再編係長】

替わる予定です。

【A委員】

ヘリオス、井波総合文化センターは教育委員会、じょうはな座は産業経済部で運営されていて、建ったいきさつや展開している事業から考えると、産業経済部でよいのではないのでしょうか。

【総務部長】

設置したときのまちづくりの観点もはいつているのがじょうはな座です。館の運営、利用実態については、個別の自主事業もありますが、文化ホール的な要素も非常に強いこともあり、やり方が変わるということではなくて、ジョイントという3館合同のパンフレットも作っており、一緒にすることによって風通しのいい部分もでてくることで、新年度から、内部的に整理を行ったところです。それぞれ指定管理を募集した要項、目的は何ら変わっていませんので従前どおりの考え方を踏襲しつつ、所管する課が一緒になったということで

ご理解いただきたいと思います。

【A委員】

指定管理にする時に、3館一緒にひとつの指定管理者にするという話があって、あまりにも乱暴ではないかということで、それぞれ指定管理にするという経緯があったと思います。所管が一つの窓口になると、三年後に、三つの指定管理者が一つに安易になってもらっては困るのです。どうしても教育委員会にいかないといけないのでしょうかね。

【総務部長】

三年後のことを申し上げている訳ではありませんので、その点をご理解いただきたいと思います。担当課とも意見交換していきまして、実際、館の運営、協議する上で、担当課も一緒にした方が良いのではないかという意見がありました。意見交換もできやすいということで、新年度からはそのようにしたいと思いますので、よろしく願いいたします。

【委員長】

今のような変更があったところは、少し備考欄にでも書いていただければ、分かりやすいと思います。また、説明の上において配慮お願いできればと思います。

では、冒頭にありました、野外児童センターについて何かご意見ありますでしょうか。

【民生部長】

社会福祉協議会の施設ということで所管の民生部から説明させていただきます。社会福祉協議会では、今後利用しないということで、取り壊しを計画されています。取り壊し費用については、社会福祉協議会には財源がないので、南砺市の財政計画の中で、援助する予定にしています。

【B委員】

市の施設と社会福祉協議会の施設と混在しているのではないのでしょうか。

【民生部長】

全部社会福祉協議会の施設です。

【委員長】

その他につきまして事務局からお願いします。

【課長】

次回の開催については、来年度、総合管理計画が策定される予定があり、6月頃に開催

する予定です。

【総務部長】

機構改革の中で、この委員会は、現在総務部の所管ですが、4月から市長政策室の所管に変わります。

【H委員】

去る2月9日に、東京大学医科学研究所のガンとスーパーコンピューターの講演会があり、出席してきました。ヒトゲノムに関する構想の説明でした。参加者から「南砺市に来られる気はありますか」という質問があり、宮野教授は、安い電力量、土地が豊富にあることなどから、開発拠点として南砺市は申し分ないところだと答えられました。新幹線により関東が近くなったこともあり、前向きに検討いただければと思います。

【市長】

ヒトゲノムの講演後、宮野先生や何人かと会いました。東京大学の研究であり、新たな医学の中で大事だなと思います。ただ、市が作るのではなくて、研究所のどういう方が、企業とタイアップして、国や県がどこまで動いているのか分からない中、条件が前に進んでいないのが現状です。

【副委員長】

長時間にわたり慎重にご審議いただきありがとうございました。11年目に入り、難しい時期になっている中、庁舎のあり方、行政センターのあり方も含めて的確な職員の人数も確定していくのではないかと、南砺市の広大な面積も鑑みながらの話ではないかと思えます。また、保育の問題、子育ての上で、教育と子育てを平行して行うということで、昔は保育かける子供の人数を保育士は預かるということでしたが、融通の利く教育保育を進めていくということで、臨時職がまだまだ多く、臨時職を正職員にレベルアップすることがやる気を起こさせることになるのではないかと思います。正職員の給与のあり方についても慎重に検討していく必要があると思います。引き続き、南砺市がどうあるべきかということがこのメンバーで決まっていく面もありまして、より一層のご意見を賜ればと思います。ありがとうございました。

【委員長】

今、副委員長からも総括的な話をいただきました。今日は、一番目から、非常に市にとって重要な課題に協議していただきました。公共施設の再編については、現状の8つのエリアのシミュレーションに聞かえたので、10年も経てば、南砺市という一つの大きな視点から、ダイナミックな考え方も今後にも必要ではないかと思えます。現状からシミュレーションすることも大切だと思いますが、鳥瞰図から見て、どうあるべきかという視点

も今後意味を持ってくるのではないかと思います。利賀村の話もありましたが、どのようなエリアマネジメントを行っていくか、今後の検討課題だと感じました。市町村にとっては、非常に残酷な話になる場合もあるかもしれませんが、何のために合併したのかということ、公共施設のあり方などにおいては、考えていく必要があるのではないかと思います。住民との間で、真摯に話をしていく姿勢が問われると思いますが、新たなまちづくり、10年以降のまちのあり方、公共施設のあり方、思い切った改革的な視点を、入れていただきたいと思います。現状と違う角度からの考え方とすりあわせて、いろんな考え方もできるのではないかと思います。各委員から活発なご意見をいただきましたので、事務局で整理していただいて今後の検討につないでいただければと思います。

この後は、事務局にお返ししたいと思います。

【行革・施設再編課長】

委員長ありがとうございました。また、委員の皆様方には、長時間に渡りまして貴重なご意見をいただき、誠にありがとうございました。それでは、閉会にあたり、市長からご挨拶をお願いいたします。

【市長】

委員の皆様から長時間にわたり、たくさんの意見をいただきありがとうございました。いろんな委員会、推進委員会があります。その中でここまで内容の重い委員会はあまりないのですが、日頃からの思いをいろいろな目線でご意見いただきまして感謝申し上げます。利賀地域の話がありましたが、人口減少については、日本の相似形が富山県、富山県の相似型が南砺市ということもあります。エコビレッジ構想で、今ある資源をどう使うかをもう一度考え直すという動きが出てきています。土地と文化を守るためにはどうするか、遊休の公共施設をどう使えるか、住んでいる人と外からの人のいろんな発想や視点をもって、何かを生み出す、雇用を広げていくことが地方創生につながっていくのだと思っています。我々が空き家をもっと、どう使えるかアイデアを出して行って、ひとつひとつ積み重ねていく、6次産業化にぜひつなげていきたいと思っています。今回予算として計上していますが、例えば子供達が地域で教育を受けて、生活をする、子育てができる、お金が多いから生まれるとかではなく、トータル的に、結婚、妊娠、出産、子育てでき、地域の中で、基礎教育を受けることができるよう、新たなライフスタイルを提供することによって、新たな価値観をもった人がこの地域に振り向き、空き家に入っていただく方への支援、また三世代同居への支援の予算を拡充させていただきました。山村過疎地域の振興条例、山を守って、田んぼを守る、上にも住んでもらいたい、下でもがんばるという移住対策の仕組みも作っています。トータル的にその地に人に住んでもらうことを考えています。来年から、市長政策室にこの委員会の所管が変わりますが、この後ろにいるメンバーの事業ひとつひとつが、目的として南砺の人の幸福感を高めるようにつなげるように、行革をしっかりと進めていかなければならないということで、ご協力、ご理解を賜りますようお願いいたし

ます。

【行革・施設再編課長】

これもちまして、南砺市行政改革推進委員会を閉じさせていただきます。本日は委員の皆様、ご多用のところ、ご出席いただきありがとうございました。